



めざす学校像

副校長 細井 宏一

早いもので、平成25年度がスタートして約3週間が過ぎました。私は、副校長2年目となり、本年度は昨年度より一歩進んだ改革を、伝統を大切にしながら進めて参ります。

私のめざす学校像は、「子どもたちが輝き、充実感・一体感・安心感のある学校」です。

「充実感」とは、児童主体の様々な活動を通して、学ぶ充実感、やり遂げる充実感、楽しむ充実感が味わう活動が豊富にあることです。「一体感」とは、各々が責任感を持つ中で、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮して、個性を伸ばしながらも協調し、チームワークよく皆で心一つにして取り組むことを大切にするということです。

そして「安心感」とは、児童が「学校に行くことが楽しい」と明日が待ち遠しくなるような、保護者の方にとっても安心して学校に送り出していただける学校作りです。施設面の安全・整備はもちろん、規律ある中にも暖かい雰囲気のある学級・学年づくりをめざし、一人一人が輝いている学校づくりを目指していきます。

また、もう一つの目標は、国際教育の先進的研究推進です。東京学芸大学の中期目標では、大泉地区は「国際」をキーワードとした改革を進めることが使命となっています。

世間ではグローバル人材の育成が喫緊の課題として声高に叫ばれ、産官学の一体改革ということで、教育では大学や高等教育のことが中心になることが多いです。また、英語教育に関心が向けられやすく、英語の授業数を増やすとか、イマージョン教育と呼ばれる、英語で算数を教えるような教育をするといった取り組みが注目されることが多いです。

ですから、「国際教育推進」というと、昨年度までとはまったく違った教育活動が展開されるのかと思われるかもしれません。確かに、本校では、伝統的に実学教育・労作教育の精神があります。この一見地道な取組は、国際教育の派手なイメージからはかけ離れたものにも思えます。しかし私は、小学校段階では、英語や外国文化理解といったことの前には、まずは、基盤となる能力資質を育成することが重要であると考えます。「基礎的な知識・技能の習得」や「思考力・判断力・表現力」はもちろんです。が、「自己を支えるたくましさや粘り強さ」「前向きさ、行動力」「他者に対する寛容さや思いやり」、「感謝の気持ち」「協調性、秩序、責任感」「自己肯定感」など、これらのことこそ、将来グローバル社会で活躍する人材になるために、小学生児童にとっては、むしろ基盤となるとても重要な能力・資質であると思うのです。

そして、その上に異文化間相互理解力、広い視野、世界への興味関心、外国語を学ぶ意欲、日本の代表的な文化の理解・親しみなど、社会のグローバル化の対応力を加味していきます。

本校では、伝統的に生活団活動や多くの学校行事で基盤となることを育ててきました。今年も継続します。授業では、話し合い活動を充実させていく取組を本年度は力をいれていきます。本年度も、本校の教育活動へのご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。